

■令和5年度第2回多摩市みどりと環境審議会（11月6日開催）以降の委員からの意見への対応（一覧）

No.	章	対象	頁 (旧)	意見	頁 (原案)	対応
1	第1章 計画の 基本的事項	1 計画の 基本的事項	4	協働による計画の進行管理での「点検・評価」に、施策の実施状況や管理指標の進捗状況などを点検し、年次報告書として公表することが記載されている。同時に、気候市民会議においても進捗状況を評価するという。 進捗状況を評価するために、気候市民会議では、どのような議論をするのか。（穴吹委員）	5	本計画の進行管理にあたっては、令和5年に実施した多摩市気候市民会議の成果を踏まえ、さまざまな年代・立場の市民が当事者としてかかわり、取組項目の見直しや追加を行う仕組みを検討していきます。 また、気候変動問題のみならず、環境の各分野や持続可能な社会に係るテーマについて、市民の視点から議論していくよう考えています。 これらを踏まえ、第1章1（6）の1～3行目の記述を変更しました。
2			4	気候市民会議を評価組織に組み込む場合、それなりの責任が伴うことになるので、難しいのではないかと。（沼田会長）		
3			4	気候市民会議という名称になると、固定的なイメージになってしまう。母体になるのかもしれないが、例えば「仮称」を付けるなどするとよい。（江尻委員）	5 63	気候市民会議を継続していくよう、組織のあり方を検討していきます。名称についても仮称として取り扱うこととし、記述を変更しました。
4	第3章 計画の 理念と目標	3 短期目 標	24	短期目標は、長期目標の半部程度にするような安易な発想で設定すべきではない。段取りのような発想を加えるとよい。（仙仁委員）	33	第4章「重点戦略（着眼点）」のロードマップにより、短期目標の達成、長期目標を見据えた中長期的な視野での計画的な取組みについて、時間軸や段取りを示しています。 その旨について、「(2) 5つの着眼点」に記述を追加しました。
5		4 管理指 標	25	市民・事業者活動指標は「“市民の頑張り”につながる指標」で、行政活動指標は「“行政の努力”として、施策・事業の進捗状況を測るための指標」と説明されている。 市民・事業者活動指標の説明に、「努力」と記述した方が、各主体が同じ方向を見据えることができると思う。（仙仁委員）	29	ご指摘を受けて、「市民・事業者の取組成果“を『見える化』するための指標」と表記しました。
6			26	指標が複雑なので、わかりにくくなってしまうので、指標に単位を付けてもらいたい。（平山委員）	30	管理指標については、単位を表示するように変更しました。
7			26	市民・事業者活動指標のところで、総量だとわかりにくいので、一人	30	「市民・事業者活動指標」では、二酸

No.	章	対象	頁 (旧)	意見	頁 (原案)	対応
				あたりや世帯当たりのように工夫するとよい。(花岡委員)		化炭素排出量、エネルギー消費量、ごみ排出量について、世帯当たりまたは市民一人当たりの指標を設定しています。
8			26	市の施設について、再エネ電気を使っているかどうかは、把握しているので、指標に上がっているとよい。(山下委員)	—	現在の指標の整理の仕方から考えると、「再エネ電気」だけを抜き出して個別の項目を挙げる必要はないと考えます。 また、既に「再エネ電気」を含めた大枠での指標があるため、指標の追加は行わないこととします。
9			26	自然環境において生物多様性の指標として、「いきものの種類数」を挙げているが、これだと大雑把過ぎる。例えば、外来種を含めても種数は増える。もう少し環境を正しく評価できるよう、「在来種の」のように条件を表示した方がよい。(仙仁委員)	30	「在来生物の種類数(在来種)」に変更しました。 また、生物多様性の拠点の状況測るよう、各拠点での生き物調査を実施し、指標種の選定についても検討していくものとし、「定性指標」としました。
10			26	「生物多様性の拠点(3地点)のいきものの種類数」について。 調査が不十分だと、新たに記録される種が年単位で出てくる可能性があり、数字だけだと多様性が高くなったように評価してしまう。ある程度安定した環境では多様性が良くて横ばい、遷移の途中段階にある環境では徐々に多様性が低下していくのが一般的な傾向だと思われるが、数字的には悪いイメージを持たれてしまう。 調査拠点の環境が置かれている状況が反映されやすい「指標種」を拠点ごとに選定し、個体数調査を行うことが考えられる。 (仙仁委員_追加)		
11			26	「みどり率」について。 本指標については、質より量の全時代的なイメージがあります。そろそろ役目を終えてもよいのではないか。 その代わりになる指標としては「みどり」の質に関するものがよいと思う。 (仙仁委員_追加)	30	現時点では把握可能な指標を挙げています。 みどりの質を表す指標の設定については、今後の検討課題といたします。
12			26	「自然体験活動の回数(行政活動指標)」について。 運用後の話になるが、本当に生物多様性の保全に資する内容の活動かどうか精査した上でカウントしてもらいたい。 (仙仁委員_追加)	30	本計画の推進段階では、生物多様性の保全に資する自然体験活動であることを精査した上で、指標値をカウントしていくようにします。
13	第4章 目標達成に向けた重点	—	27	第4章の「1 目標達成に向けたメッセージ」について。誰から誰にあてたメッセージなのか、分かりにくい。市民がこのような考えを共有	6	第4章の旧「1 目標達成に向けたメッセージ」及び「2 多摩市の環境を取

No.	章	対象	頁 (旧)	意見	頁 (原案)	対応
	戦略と分野横断的取組			しましうと書いてはどうかと思った。(穴吹委員)		り巻く危機を克服するために」の内容の位置づけについて再考し、第2章の「1前計画策定以降の動向」に記載するようにしました。
14		—	28	<p>第4章「2(1)気候危機」について。大雪による街路樹の倒木の写真が載っているが、これは気候危機ではなく、街路樹の管理の問題に関するもので、この箇所での使用は不適切と考える。</p> <p>気候変動により極端減少が増加するという話の中で大雪とその被害を取り上げているが、写真の大雪は通常の気象現象の範疇と考えられる。</p> <p>何かビジュアルを載せるとしたら、文章でも最初に取り上げられている今年の猛暑に関するものの方がよいと思う。</p> <p>https://www.jma.go.jp/jma/press/2309/01b/tenko230608.html (仙仁委員_追加)</p>	102	第5章の現状と課題の「①多摩市での気候変動による影響の懸念」において、令和5年の猛暑について情報を追加しました(コラムとして掲載。倒木の写真は削除)。
15		着眼点1	36	<p>近年、「気候テック」が注目されるようになっているので、例えば行政活動指標に「気候テックへの援助」や「気候テック企業の市内誘致」といったことを加えるのはどうか。</p> <p>枠組みを作るのに時間がかかる場合は、気候テックへの投資の検討の進捗を指標にしてもよいかもしれない。</p> <p>(仙仁委員_追加)</p>	63	<p>いわゆる気候テック(気候変動関連技術)のような研究開発は、分野横断的取組【5-1】の「〇市民などからの提案・アイデアの実現・実装に向けた研究開発(事業者や教育機関、市などの連携による社会実験、企業誘致など)」において、検討していきます。</p> <p>ただし、管理指標の設定については、今後の検討課題といたします。</p>
16			37	ちゃんとした庁舎で、きちんと見本を見せるのは大事である。きちんとしたものを作るのは市からはじめてもらうとよい。(沼田会長)	—	公共施設における省エネ・再エネ導入の率先行動については、今年度に改定予定の「多摩市地球温暖化対策実行計画【公共施設編】」に基づき、取組みを進めていきます。
17		着眼点2	48	<p>ワンヘルスというキーワードについて、もう少し広いスケールで見た場合のものなので、おそらく多摩市ではほぼ関係ない。</p> <p>これから問題になることとしては、野生動物の都市部への侵入の問題などはあるだろう。その場合、ワンヘルスは、ミスリーディングになるおそれがある。(沼田会長)</p>	46	ご指摘を受けて、分野横断的取組 2-3を「都市における生物多様性の理解促進」に変更し、記述を変更しました。
18		着眼点3	52	マイクロプラスチックは、市長から指示があり盛り込んだ経緯があ	48	ご指摘を受けて、分野横断的取組 3-1

No.	章	対象	頁 (旧)	意見	頁 (原案)	対応
				るが、現状において、市内で深刻な問題ではない。(沼田会長)	50	と 3-2 の記述を整理しました。
19		着眼点 5	63	着眼点 5 で「気候市民会議」と書いているが、「気候」というと視野が狭くなるので、「環境」か「サステナビリティ」とすれば、参加する方も視野が広がると思う。(山下委員)	63	今後実施していく気候市民会議においては、気候変動対策を含む持続可能な社会について、市民の視点から議論していくよう考えています。 その旨について、市の取組み「○気候市民会議の創設、活動推進」の記述を変更しました。
20	第 5 章 分野別の取組み	—	65～ 127	取組項目 (A1～K1) の記述について、具体性のある記述とした方がわかりやすい。(花岡委員)	—	今後、予算化も含めて、具体的に取組を進めていきます。
21		3 生活環境分野	104	子どもたちが猛暑のなか、影響を受けていることも踏まえ、現状と対応を記述すべき。例えば、104 頁の影響分野に学校がない。一項目を追加し、それに対する対応を、短期・長期にわたり、子どもたちを守るということを記述するとよい。(小林委員)	104	子どもたちは気候変動影響をより受けやすいことについて記述を追加しました。 また、「今後の取組み」として、将来を担う子どもたちを守るために適応策を推進する旨について記述を追加しました。
22		4 地球環境分野	109 他	CO2 排出量について、算出する際の排出係数や計算式を併せて表示した方がわかりやすい。(穴吹委員)	110	コラムで「CO2 排出量の計算方法」についての情報を追加しました。
23			37	省エネとして、断熱材を入れた家と入っていない家では、どう違うのかについては、口で言ってもわからない。実際に 1 枚ガラスとペアガラスを触れば、全然違うとわかるし、シェードをつけるのと、内側にカーテンをつけるのでは温度が違うなど、環境教育施設的なものを設けて、実際に体験できるような場がないとわかりにくい。品川区では環境学習施設を造った。民間では、来年あたり一ノ宮に施設ができるようだ。そういう施設を活用して、2050 年の生活のイメージを伝えていく必要がある。 (小林委員)	127	環境教育施設の設置や他自治体・企業などとの連携については、教育委員会との調整が必要となるため、今後の課題とします。 コラムで「体験型のエネルギー・環境教育の事例」についての情報を追加しました。 取組項目 J1 の「○環境学習の推進」において、住宅での省エネや断熱化などの体験を含む、環境学習の機会の提供についても検討していきます。
24			37	知識だけだと難しいので、小学校で断熱を体験するような機会を増やした方がよいと思う。(山下委員)		
25			124	環境教育の分野でも知識を得る方法として、見て触って納得する、体験型の環境教育をエネルギーの分野でも強化・展開していくことを記述してもらいたい。 以前の審議会で配付した「えねこやの体験授業」では、多摩市では民間が設置する常設の環境教育施設を使って展開する、さらに、えねこや		

No.	章	対象	頁 (旧)	意見	頁 (原案)	対応
				<p>の体験授業と自ら再エネに挑戦することで、聖蹟桜ヶ丘駅前では5年前から再エネによるイルミネーションの点灯と光のメッセージによる環境問題への情報発信を行っている。</p> <p>こうした活動を続ける中で、多摩市の小学校では、授業で使う一人一台のタブレット端末の充電を自分たちで太陽光パネルを使って充電し始めている。昨年の瓜生小学校に続いて、今年は一小、寺小、二小へと広がりつつある。この子たちが2050年には、社会を支える中核人材となっていく。</p> <p>気候市民会議の参加者である12歳の中学1年生は、えねこやを体験し、自ら風力発電に挑戦して充電式乾電池への充電を行い、プラレールを走らせていた。そしてタブレット端末への充電も行ってきたミライの大人である。</p> <p>この辺の具体的な取り組みと成果を盛り込んでもらいたい。</p> <p>「環境教育を続けますよ」では代り映えないので、環境基本計画にある環境教育を続けた結果、どうなったか、だから、さらに充実したものにしていくという姿勢を表すとよい。</p> <p>(小林委員_追加)</p>		
26		5 環境活動分野	—	<p>気候非常事態宣言を出した多摩市が、新たな環境基本計画の目玉の一つとして気候変動の影響をものに受けている子どもたちに焦点を当て、独自にその対策を進めると書き込んでもらいたい。(小林委員_追加提出)</p>	—	<p>子どもたちに焦点を当てた独自の対策については、教育委員会との調整が必要となるため、今後の課題とします。</p>
27		—	—	<p>小学校の断熱改修の件。外の熱がどういうルートで室内に入ってくるのか、その割合はどうなっているのかというデータは、日本建材・住宅設備産業協議会のHPに掲載されている。</p> <p>窓からが7割で、まずはここから入る熱を窓の外に設置した日よけシェードやブラインドなどで遮断することで、教室内の冷房効果を高めることができるようだ。</p> <p>https://www.kensankyo.org/syoene/qanda/mado/a_9.html</p> <p>今、全国行われている校舎の断熱化の改修工事の事例は、以下の学校建築脱炭素研究会のHPが詳しい。</p> <p>https://sites.google.com/maelab.arch.t.u-tokyo.ac.jp/shcool-datsutanso/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0?authuser=2</p> <p>気候非常事態宣言を発出した多摩市で、異常気象の最前線で大きな影響を受けているのが子どもたちである。</p>	—	<p>小学校での断熱改修については、教育委員会との調整が必要となるため、今後の課題とします。</p>

No.	章	対象	頁 (旧)	意見	頁 (原案)	対応
				<p>「気候非常事態」から子どもたちを守るという視点で、環境委基本計画にも盛り込むべきではないか。</p> <p>断熱改修には大きな予算が必要となるが、今後、国会でも議論となり、こういうことがお好きな知事が再選されれば、都でも取り上げられる可能性がある。</p> <p>こうした動きに先駆けて、気候非常事態宣言を出している多摩市では、新しい環境基本計画に盛り込み、まずはあまりお金のかからない日よけシェードの設置等を少しずつ進めていってはどうか。</p> <p>(小林委員_追加)</p>		
28			—	<p>校舎の遮熱、断熱の件ですが、近隣の2校の小学校で来年5月から1階の教室一クラスの校庭側にシェードを設置して、10月くらいまでの期間に、教室内の温度分布をサーモグラフィーで記録する方向で検討しています。</p> <p>シェードを設置した教室と従来通り何もしない教室でどんな違いがあるかを調査します。</p> <p>この調査結果を受けて、まずは遮熱、次に断熱で子どもたちをこの異常気象からどう守ることができるか検討していきます。</p> <p>ですので、新しい環境基本計画にこのことを取り上げておかないとちょっとおかしなことになりますよ。</p> <p>新しい環境基本計画にない取り組みが市内の小学校で始まり、当然、このことは保護者(市民)の知ることになります。</p> <p>新しいはずの環境基本計画が、その時点で全く市内の新しい流れについていけないものとなってしまいます。</p> <p>(小林委員_追加)</p>		
29	概要版			2030年までに省エネを進めるべきで、概要版にも言葉を入れてもよい。(藤井委員)	—	ご指摘を踏まえ、計画書に合わせて作成する概要版を作成していきます。
30	概要版			頁数を増やし、どのようなことが記載されているのか、わかりやすく示すとよい。(花岡委員)		